

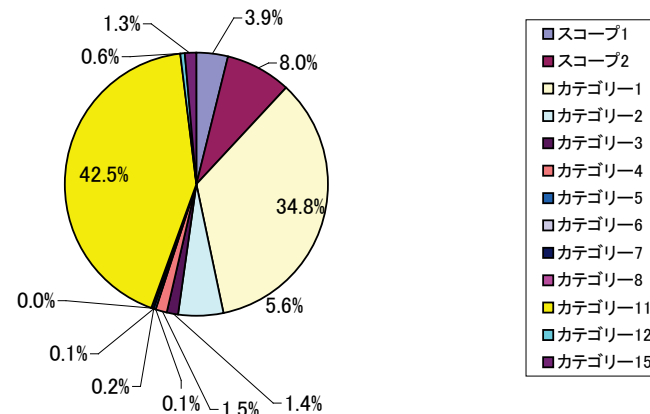
	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● Scope3の算定が社会的な要求になりつつあることを受け、サプライチェーン全体を通じた温室効果ガス排出量を把握することで、当社の事業で排出量の多いカテゴリーを認識し、より効果的な削減対策の取組みにつなげる。</li><li>● 環境経営度の評価として、サプライチェーン全体の排出量の算定・開示を行うことは、社会的、ビジネス的な評価向上が期待される。</li></ul>
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● 社会環境報告書、ホームページ等での公開。</li><li>● 社内での環境教育資料とすることで、自らの業務と排出量との結びつきを認識し、削減意識の高揚につなげる。</li><li>● 外部からの企業環境取組み評価アンケートに対する回答。</li></ul>
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● サプライチェーン全体の排出量が見える化されることで、削減取組みのねらいどころが明確化される。</li><li>● 社外アンケート、顧客等の利害関係者からの開示要求へ対応が可能。</li></ul>
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 各事業部や、環境部門で収集している既存データをベースに、環境部門で取りまとめて算定。(基本的に新たなデータ収集は行わない)</li></ul>

## 各社の考え方

### □ サプライチェーン排出量の削減に向けて

- 算定結果からは、カテゴリ11(製品使用)とカテゴリ1(購入物品・サービス)で大半を占めており、環境配慮製品の開発、また、材料購入時の環境負荷が少ない材料選定の取組みが重要になる。

ノリタケのスコープ1,2,3 温室効果ガス排出量(国内2012年度)



### □ サプライチェーン排出量算定の課題

- 当社製品は、工具、材料が主流であり、カテゴリ11の算出では間接的な使用による排出となるため算定が難しく、使用条件のシナリオ設定の精度をあげることが課題。
- 今後、継続的に算定を行っていくことを踏まえて、算定方法の簡素化、マニュアル化。

### □ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ

- まずは概算でも、サプライチェーン排出量算定を行うことは、自社の業務と温室効果ガス排出との関わりを眺めて、認識することができるため、削減対策の重要な一歩と考える。
- サプライチェーン全体の排出量算定は、既存のデータにより大半は算定可能だが、より精度を上げるためには、日常のデータの取り方を工夫し、後々算定に利用できるように準備する必要がある。

## 3

## 株式会社ノリタケカンパニーリミテド

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 購入材料量(重量または金額からの重量換算)	● CFP-基本DB
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資額	● 環境省DB(Ver2.0)
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー種類別の使用量	● CFP-基本DB
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 出荷物流:荷主輸送量トンキロ、 ● 調達物流:材料購入量からシナリオ設定で推定	● CFP-基本DB
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別、処理方法ごとの発生量	● 環境省DB(Ver2.0)
カテゴリ6「出張」	● 従業員数	● 環境省DB(Ver2.0)
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員数、営業日数、勤務形態、都市区分	● 環境省DB(Ver2.0)
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● 借用倉庫の電力量	● CFP-基本DB
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 年間出荷量及び、使用時のシナリオ設定	● 環境省DB(Ver2.0)
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 年間出荷重量及び、廃棄方法のシナリオ設定	● 環境省DB(Ver2.0)
カテゴリ15「投資」	● 株式投資先の株式保有数及びスコープ1,2排出量	